

題名 広島平和記念式典派遣事業に参加して考えること。

鹿沼市立北中学校 (氏名) 渡辺 歩



僕は、広島平和記念式典派遣事業に参加して、原爆の恐ろしさについて改めて感じました。特に、原爆の後遺症についてです。平和記念資料館で後遺症に苦しむ人の写真を見ました。また、最終日に被爆体験講話学習で実際に体験をした方に聞くことができました。一生残る後遺症の斑点は、見苦しく、とてもつらい思いになりました。また、水不足になり空から降る黒い雨を飲む絵を見て、衝撃を受けました。これからは、この悲劇が繰り返されないように自分たちがどのようにみんなに伝えられるか考えて行動していきたいです。今回で派遣事業メンバーと仲良くなり、違う面でも学ぶことができました。それは、友達関係です。出会って3回くらいしか会ってない仲間だったけれど、最終日には、みんなが仲良くしていてとてもいい経験になりました。

題名 ロシアのウクライナ侵攻に対して考えること。

鹿沼市立北中学校 (氏名) 渡辺 歩

僕が一番衝撃を受けたのは、民間人が避難していたシェルターにロシアの軍隊が攻め入り、何人も人を殺してしまったというニュースです。何も悪くない人達が、無責任に殺されてしまうという理不尽な行為だったので衝撃を受けました。このことから“無差別に人を殺してはいけない”ということを感じました。殺された人の中には、妊婦や子供、あるいは赤ちゃんまでを殺しました。ロシアの人は例え、えらい人からの命令であったとしても、してはならない行為です。もう少し人々が命の尊さについて深く考え、今生きられている感謝をもって生活してほしいです。また、現在ロシアは核の使用をちらつかせています。このことについてはサミットでなにか行動をしなければならないと思いました。互いが戦い合い、人が何人も死んでしまっている時点でどちらが悪いかなど決めることができないと思います。

題名 今日ある日本の平和について考えること。

鹿沼市立北中学校 (氏名) 渡辺 歩

今、日本は平和であるといえるでしょう。しかし、他の国を見てみると、戦争をしている国や子どもが学校に行けない国もあります。日本の平和は危険ととなり合わせの平和です。今の日本の平和がいつ、どこで壊されてしまうか分からない状態です。日本は非核三原則の下、核を所持していません。しかし、他の国では戦争中に核を使用するような発言をしている国もあります。なので日本だけが核を抑止しても意味がありません。なぜなら不利な状態に置かれてしまうからです。日本で核を持つべきという考えもあります。どちらが正解か僕には決めることができませんが、今の時代のグローバル化を利用し、いろんな国とたくさん話し合い決めるべきです。日本や他の国が行動しなければ今後も危険ととなり合わせの平和な日本のままでしょう。

題名 あなたにとって「平和な社会」とは何か、「平和な社会」を実現するために必要なこと。

鹿沼市立北中学校 (氏名) 渡辺 歩

平和な社会とは、だれもが心がいやされ、幸せと覚えることが1日に1回以上あることだと考えました。争いはなくなることはありません。なので争いを1つずつ減らしていくことが平和な社会につながっていくと思います。人はそれぞれ心を持っています。全員が同じ心を持っているわけではありません。なので心のずれが生じてしまうことがあります。その時に話し合い、すぐに物理的な戦いになるのではなく心理的な部分で問題を解決することが今、世界で求められています。自分達の争いを1つずつ減らすことからスタートすると思います。もし争いがおきたとしても、すぐに謝ったり、仲を直すことで平和な社会になっていきます。今の時代は多様性の時代です。人が何かを決めつけるのではなくその考えを広めていくことが大切だと思いました。